

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名

青 森 県

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	鱒ヶ沢町立鱒ヶ沢第一中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	20
生徒数	68	81	88	1	238	

研究の概要

1. 研究主題

たくましく進路を切りひらく生徒を育てるための
確かな学力を育む学習指導の研究

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

実施学年： 全学年 (第1～3学年) 教科： 国語・数学・英語

学力向上のために、段階的・継続的な学習の積み重ねが特に重要な教科であり、生徒個々の小さなつまずきにより、理解・習熟の状況に差が出やすい教科であるため。

(2) 年次ごとの計画

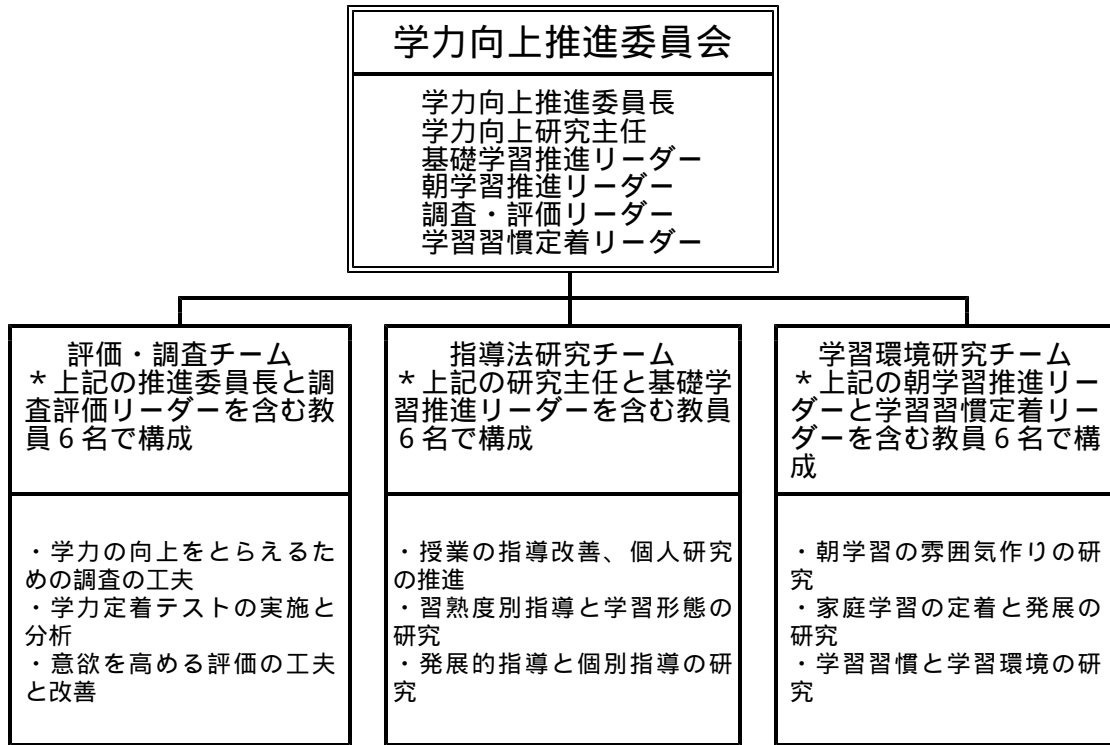
平成15年度	<p>テーマ 基礎基本の定着を図るための学習指導の工夫と改善 研究の見通し(仮説) 学校教育において、学習指導の形態や手だてを工夫し、基礎基本の定着を図ることによって、生徒一人一人の確かな学力が育まれ意欲的に学習する生徒が育つ。</p> <p>研究の内容<方法> 選択「基礎」の時間の効果的な運営について <習熟度別クラス分けとT.T.の導入による個に応じた指導の拡充> 教科の授業における教師の指導力の向上について <教科の特性を生かした学力向上のための具体策の実践> 朝自習・朝読書の指導の工夫と改善について <学習意欲の喚起と学習集団としての雰囲気作り> 家庭学習の生かし方について <家庭学習の指導を徹底し、学習習慣の定着と学び方の向上を図る></p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 主体的な学び(学力の向上)を促すための指導と評価の研究 研究の見通し 個々の生徒の習熟状況や学習の仕方について、適切な評価のあり方を工夫し、指導との一体化を図ることによって、主体的に学力向上に取り組む生徒が育つ。</p> <p>研究の内容・方法 選択「基礎」の時間の効果的な運営について <個々の学習状況の把握の仕方と評価の生かし方の工夫・実践> 教科の授業における教師の指導力の向上について <教科における評価と指導の一体化の工夫と改善></p>
--------	---

(3) 研究推進体制

全教職員で学力向上のための研究を推進することを共通理解した上で、評価・調査、指導法研究、学習環境の3分科会に分かれ、それぞれのテーマ・課題について研究を進めることにした。また、各分科会代表者2名から成る学力向上推進委員会においてそれぞれの分科会の研究内容の確認と検討が行われるとともに、全体会で研究の共有と共通理解が図られる。

<研究推進のための校内体制>



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

平成15年度からの新規校であるため、学力検査等による客観的なデータ比較や総合的な学力向上の把握は難しい。以下に、現状において成果と思われる点を上げる。

(1) 学習に関するアンケート調査から

今年度7月と12月に、生徒および保護者を対象に「学習に関するアンケート調査」を行った。その結果を一部抜粋して記す。

質問「授業には集中して取り組んでいますか？」*左7月、右12月。数字は人数。

	1年生全体		2年生全体		3年生全体	
集中している	7	12	12	14	8	21
集中しているほう	37	32	39	37	38	33
どちらとも言えない	15	16	18	17	34	28
あまり集中していない	7	4	6	3	3	2
集中していない	0	0	0	2	3	0

全学年において、「授業に集中している」と答えた生徒数が増加している。また「あまり集中していない」と答えた生徒が減少している。

質問「教科の内容をどれくらい理解していますか？」

	3年生国語		2年生数学		2年生英語		3年生英語	
ほとんど理解している	16	22	15	14	9	16	9	17
だいたい理解している	30	34	25	28	18	16	26	21
半分ぐらい理解している	29	24	23	25	25	26	31	29
あまり理解していない	5	5	10	5	15	10	12	12
ほとんど理解していない	0	0	2	1	8	5	6	5

2年生の英語と数学、3年生の国語と英語において左記のように生徒の理解意識の向上が見られる。

学年および教科によって差はあるものの、全校的に学習に向かう生徒の意欲が高まっていることが実感できるようになった。全学年全教科とはいかないが、教科の内容を理解できるようになったと自覚する生徒が増加傾向にある。

(2) その他、生徒の学習意欲の向上が見られる事例

数学の一次方程式を取り上げた全校計算コンクールの実施(4回)
漢字検定、英語検定、数学検定等、各種検定受検希望者と合格者の増加。

授業以外でも計算コンクールでの成績向上や各種検定の受検者増加等、生徒の学習意欲の向上が見られる。

(3) 学習指導の工夫改善について

選択「基礎」の開設により、国語・数学・英語の基礎学力の定着と向上を目指した。この授業では、習熟度に対応した少人数グループ編成やT.Tの導入も試み、効果的な学習指導のあり方について研修、研究が行われた。

各教科の授業において学力向上のための具体的な取り組みが確認され、日常の授業における基礎・基本の定着がより意識的に行われている。また、互いの授業公開などにより、授業改善および指導力向上に努める雰囲気が高まってきている。

2. 今後の課題

教科の特性を踏まえ、評価規準・基準のあり方を工夫し改善すること。
学力の変容をとらえるための客観的なデータの蓄積と、それに基づく指導の改善。
個の習熟度をより適切に把握し、個に応じた指導と評価の一体化を図ること。
選択「基礎」の授業の質的向上。(学習内容、指導方法、指導体制の工夫)
フロンティアスクールとしての研究成果の普及推進

学力把握のための学校としての取り組み

(1) 標準学力検査(NRT)の実施

全校生徒を対象に標準学力検査を実施し、学年・教科ごとにその結果分析と考察、具体的な改善対策について検討した。

(2) 学習に関するアンケート調査の実施

全校生徒と保護者を対象に、7月と12月の計2回、「学習に関するアンケート調査」を実施し、分析と考察を行った。
生徒の学習意欲および学習に対する意識の変容をとらえること、家庭での学習状況の把握と改善を促すこと、学力向上フロンティア事業に関わる学校の取り組みについて保護者からの意見や要望を集めることを、主たる目的として行った。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

鯉ヶ沢町教育研究会研修会にて授業公開

平成15年11月5日(水) 午後1時30分～

場所：鯉ヶ沢第一中学校 体育館

内容：・選択「基礎」授業発表(鯉ヶ沢第一中学校全学年)

- ・全体会フロンティア事業の取り組み状況説明
- ・舞戸小学校の実践資料発表
- ・研究協議会

ホームページは現在制作中である。来年度以降の公開を目指したい。

